

「運転中 スマホ操作は 絶対やめて！危険は検索できません」平成29年度最優秀交通安全標語

残念ながら8月は2件の交通事故が発生しました。1件目は前橋工場にて、片側2車線の幹線道路を通行中に右側車線に車線変更をしたところ、右側車線の後続車に接触する事故でした。2件目は東日本技術センター平塚グループで、交差点を赤信号で停止し青信号で進み始めたところ、前方車の停止に気付かず前方車に追突する事故でした。幸いなことに2件とも物損事故(双方にケガなし)でした。

そこで今月は社内で発生した交通事故の要因でもあります、車線変更の「無理のない安全な車線変更」について考えてみました。

ご一読して、安全運転に役立ててください。

I. 無理のない安全な車線変更とは

1. 進行先の車両の動きと距離の把握、速度コントロールと十分な安全確認が重要

車線変更時に車と衝突した交通事故(2015年中)を道路の形状別にみると、速度が出やすい「直線(一般単路)」が最も多くなりますが、交差点より30m 以内の「交差点付近」も全体の19%を占めています。交差点の手前で慌てて車線変更をしている様子が見えがえします。

車線変更時の事故件数を進路方向別にみると、右・左とも同じ割合で発生しています。右への車線変更は、右車線の車の流れに合わせて加速が必要となる場合が多くなります。そのときに右車線を走る車との動きと距離を見誤って移動すると、接触する危険が生じます。速度が速いほど接触したときの跳ね返りが強くなり、ハンドルをとられて別の車に次々に当たる多重事故や、壁や路肩等に激突する重大事故が起きる危険性が高まります。一方、あまり加速を必要としない左への車線変更では、右への進路と違い、運転席からみて左側の前方や側方～後方にかけて死角(確認しにくい範囲)が発生します。死角部分の安全確認が不足していると、バイクなどの車両と接触するおそれがあります。

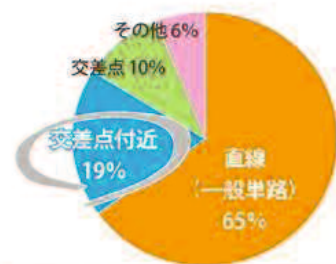


図1: 車線変更時の事故を道路形状別にみた割合

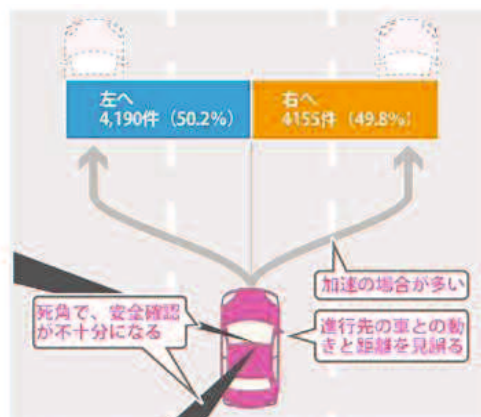


図1,2出典：公益財団法人交通事故総合分析センター 平成27年版「交通事故統計年報」より弊社作成

※車線の変更を伴う「進路変更」を、ここでは「車線変更」に表現をかえて記載しています

2. 安全に車線変更を行うには…

安全で無理のない車線変更の方法についてみてみましょう。

注: 説明図上では車間距離が詰まった状態で解説しています。(下図)

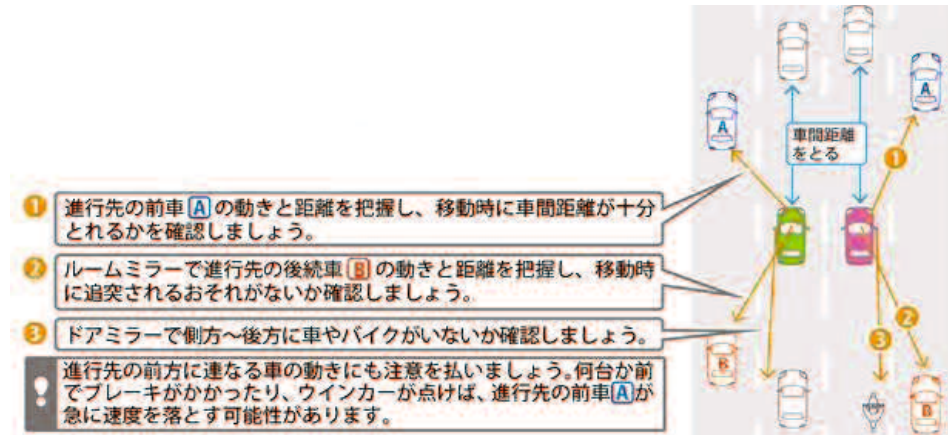
実際に走行する際は、説明図よりも車間距離を十分にとって運転してください。

3. まずは十分な車間距離をとりましょう

進行先の車線の安全確認を行うために、前方から目を離す瞬間があります。前車が急に速度を落としたときに慌てないように、十分な車間距離をとりましょう。

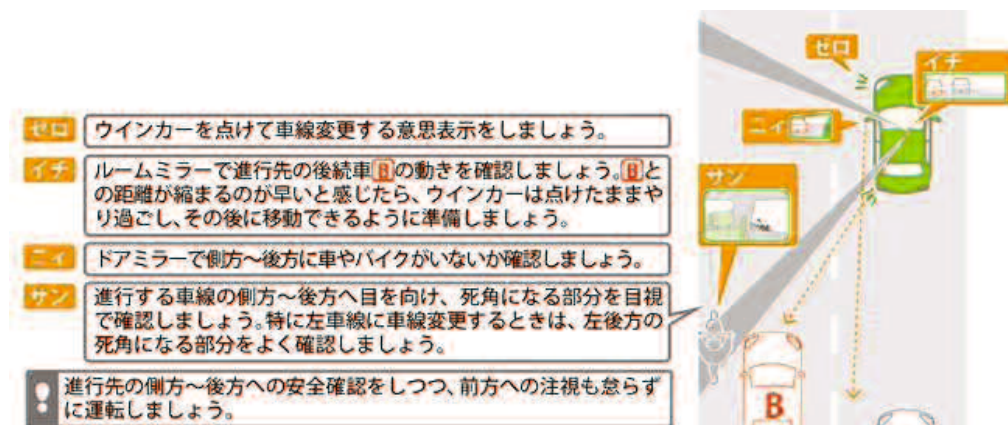
◆ Step1 車との動きと距離を適切に把握し、安全確認を行いましょう

車線変更する際に、進行先の車線を走る車の間に割り込む場合は、車までの動きと距離を十分に把握していないと、「危ない」と感じたときにはすでに接触してしまっている危険性があります。



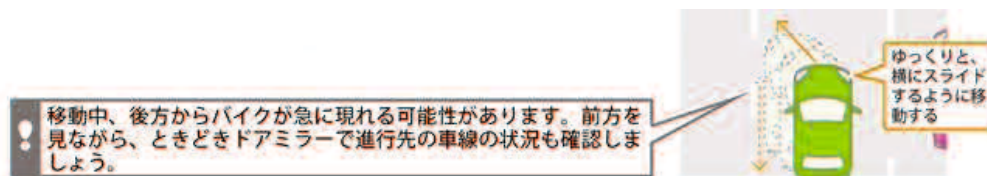
◆ Step2 意思表示を行い、もう一度安全確認を行いましょう

ウinkerを点けて車線変更する意思表示をしても、すぐに気づいてくれるとは限りません。自車に気づいてもらうため、ウinkerを点けたら「ゼロ・イチ・ニ・サン」とゆっくり3秒数えて待ちましょう。3秒数えている間に、もう一度進行先の車線の安全確認を行いましょう。



Step3 車の流れに合わせ、横にスライドするように移動しましょう

速度が速い状態で急に車線変更すると、ハンドルをとられる危険性があります。進行先の車の流れに合わせて徐々に速度調節し、ゆっくりと横にスライドするように進行先の車線に移動しましょう。



！車線変更するときは、進行先の車の動きと距離を把握し、十分な安全確認を行いましょう

！ウインカーを点け、注意を払いながら車の流れに合わせて、落ち着いて移動しましょう

Ⅱ. 今月の交通ヒヤリハット

・事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	自動車運転中
どこで	交差点で
何をしている時に	直進しようとしている時に
どうなった	右折の為に停車している車をよけようと左へよったら後ろからバイクが追い抜いて行った

Ⅲ. 今月のスローガン（企業開発センター交通問題研究室）

歩行者を

早めに見つける ハイビーム